

# 家庭教師派遣業協同組合新聞

## 第5号

発行元：〒332-0015  
埼玉県川口市川口6-5-35  
TEL: 048 (257) 5988  
info@khkk.or.jp



### 業界展望

## 不景気と教育費、その費用対効果はどうなのか

2009年に底を打ったかに見える景気ですが、なかなか明るい展望が見えない状況が続いております。

そのような中であつて、組合加盟の家庭教師派遣業者が興味あるデータを公表しました。それによると、中学受験の合格者が例年より増加したということです。例年なら合格が危ういと思われる生徒が大勢合格したといえます。

具体的な例を挙げていたところ、ある大手塾のある教室で女子が10名ほど受験して、その業者が指導してもらっていた生徒だけが女子校の最難関校に合格したと言っていますが、その生徒はその教室では真ん中程度の順位だったとい

うのです。そして、その保護者は弟の受験に際しても家庭教師をつけることを業者に希望していただけたというのです。

その業者の分析としては、景気が良くないので、一般家庭の保護者は思い切った教育費を出せなかったのではないかと。反面、家庭教師をつけるなど十分に教育費をかけた結果、通常より競争力がついて逆転現象がおきたのではないかとのことでした。

考えれば当然のことなのかもしれませんが、教育費のかけ方でこれほど顕著に効果が出るのは私にとっても驚きでした。来年の受験にあたり、受験をひかえたご父兄にぜひご紹介したい事例です。

さて、民主党政権となり、子ども手当や公立高校授業料実質無料化案が論議されております。子どもを持つご家庭にとつては大歓迎だと思えます。家計が助かり、余裕が生まれるご家庭も多々あるように思います。習い事や、学習塾、家庭教師などに大いに活用していただければ教育効果も大きいものと思われま

す。年間所得が大きくなければなるほど、教育費に対する支出を増やす傾向があることは、統計的に見ており、いわゆる豊かな家庭ほど教育に関心が高いといわれております。子ども手当や高校授業料無料化が実施された場合は更に格差が広がるのではないかと考えることも

できます。さて、民主党政権となり、子ども手当や公立高校授業料実質無料化案が論議されております。子どもを持つご家庭にとつては大歓迎だと思えます。家計が助かり、余裕が生まれるご家庭も多々あるように思います。習い事や、学習塾、家庭教師などに大いに活用していただければ教育効果も大きいものと思われま

## 潜在する力

「絶対に志望校に合格させたいんです！」お母様は、強い口調でそう言いました。志望校は地域一番の難関高校。成績を見ると合格ラインには届いていませんでしたが、頑張れば手が届きそうという状況。

「この成績なら頑張れば大丈夫でしょう。」ご指導を開始してから最初の模試で、成績は少しだけ上がりました。しかしそれから半年、彼女の成績は上がりが下がりがつたりを繰り返して、もう少しで合格ラインに届きそうだけ、なかなか届かないという状況が続きます。

彼女が勉強をサボっていた訳ではありません。お母様にお話を聞いても、夜遅くまでしっかりと勉強しているとのこと。それなのに結果がついてきません。私も焦っていました。彼女はもっと焦っていました。

いや、追いつめられていたという方が正しいかもしれません。日がたつにつれ彼女の顔から明るさが消え、悲壮感すら漂っていました。

そんな状態がしばらく続き、このままでは彼女が体調を崩しかねないと判断した私は、「志望校を変更させてもらえませんか。」とお母様にお願いをしました。お母様は最初こそ反対されましたが、彼女の様子を心配して最後は志望校を変更することを承諾してくれました。

志望校を変更することを決めた後の授業では彼女の表情から悲壮感が消え、もとの明るい表情を取り戻してました。その後、最初に受けた高校に無事合格し、あとは本命の高校に合格すれば……と思っていたのですが、その本命の入試前の最後の模試で『事件』は起こります。

あれだけ頑張っても届かなかった当初の志望校の合格ラインを、軽々超える点

数を彼女は取ってきたのです。私とお母様は驚き、彼女はとて喜びました。「私、やっぱり志望校変えたくない。ダメでもいから行きたい。高校を受験したい。」お母様や私が反対する理由はありませんでした。それから1ヶ月間、私はできるだけ難しい入試問題を課題に出しました。しかし、彼女はその課題をいとも簡単にクリアしていきま

す。半年前とはまるで別人でした。おそらく「志望校に合格しなればならない」というプレッシャーが、私たちが想像していた以上に彼女にとつて重荷になっていたのだと。なかなか思うような結果が出ないことで、徐々に焦りと不安が大きくなり、ますます結果が出ないという悪循環に陥っていたのだと思

います。しかし、志望校を変更しプレッシャーから解放されたとき、それまで蓄えてきたものが一気に溢れ出てきたという感じでした。結局、彼女は当初の志望校に

合格したのです。その本命の入試前の最後の模試で『事件』は起こります。

きそうです。余裕のある豊かな家庭は十分な教育費をかけてご家庭の希望する教育を施すことが可能である反面、余裕のない家庭はそれほど教育費をかけることができなくなりそうだからです。

一般的に家庭教師の指導において、十分な成果が得られた場合、その生徒の競争力は大きく伸びるといわれております。また、このような不景気なときこそ効果が顕著であるとするならば、我々も大いに保護者にご説明すべきではないかと思

うところでありま

(文責 森田守保)

成績上位で無事合格しました。彼女のようによつととした精神状態の違いで別人のように素晴らしい結果を出すことがあります。逆にほんの些細なこととで本来の実力を発揮できない場合もあります。

「あのとき志望校を変更しよう」と、提案してはいたけれど彼女はどうなっていたのだろう？」

もしかすると受験に失敗し、自信を失ったまま高校生活を送っていたかもしれま

せん。そう考えるとプロ家庭教師という仕事の責任の重さを改めて感じます。一人でも多くの子どもたちが、彼女のよう

## 18年子供達を見て来て

家庭教師をお世話する仕事を始めてから、あつと

言う間に18年の月日が流れました。若い頃は、それこそ無我夢中で仕事に追われるように生きてきましたが、現在はこの仕事をどうして行けば良いか様々なケースを体験して来たことで、余裕も生まれました。

その18年間の経験の中で、印象に残るご家庭もいくつかありますが、1番印象に残るのは3人のご兄弟を、ほぼ10年間かけてお世話してきたご家庭です。何度か夕食にまで呼ばれたお兄さんが蟹が大好きでした。今は亡くなったおじいさんが蟹はもちろんいつも食べていらつしやいました。子供達はもちろんおじいさんの面影が今でも目に焼き付いています。

次は新潟県妙高市へのお世話。このご家庭は教師を手当することが何より大変だったこと、そして自分がスキーをするので、子供の頃父親に連れられて何度もきたその値地に、「まさか仕事で来る時が来るとは！」と高地の夜空を見上げた思い出があり、とても印象に残っています。

3番目は、やはり一番最初に会った子供さん。女の子で当時中3の受験生でした。今まであまり勉強した経験がないため、本当に家庭教師をして勉強することと心配するお父さんに、「一所懸命頑張るから」と話していただくことを思い出しました。帰り際に家の外へ出て手を振ってくれたことを今でも忘れませんが、もちろんそれ以外にもたくさんいろいろな思い出になるお世話をさせて頂きました。家庭教師をお世話する仕事を

して来て、何が良かったと聞かれれば、こうした経験をいくつもいくつもして来たことです。これからもまた、たくさんのご家庭との出会いがあると思います。どの家庭もお気持ちは優しく、子供さんへの思いはとて温かいです。みなさん同じです。自分にもようやく「子供が生まれ、そのお気持ちを完全に共有できるようになりました。自分にも子供が出来たこと、これから様々なご家庭との出会い一つ一つ

は、より心に残る一つ一つのおつき合いになると思

います。頑張つて生きよう。そうした強い思いを18年間の家庭教師の仕事を通じて頂いた気持ちで、この仕事にと



ても感謝しています。(文責 渡辺敏明)